

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

1日

先負 心

旧1月21日

金曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

ぜ

しょう

やく

そう

是小薬草

「是れ小の薬草なり」

仏さまの教えを聞いても、智慧が浅く、少ししか理解できない者がいます。

それでも相応に修行をすれば、完全に迷いを解くまではいかなくても、人間界では転輪聖王という徳の高い王様や、天上界の帝釈や梵天になることができると説かれています。

そのような者を「小さい薬草」に喩えています。

王様や諸天善神になれたとしても、まだ「小さい薬草」、仏の道の果てなさも感じます。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

2日

仏滅 尾

旧1月22日

土曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

ぜ ちゆう やく そう

## 是中薬草

「是れ中の薬草なり」

世間の迷いを取り除き、心の勝れた働きである  
三明（過去・現在・未来を知る）や、六通（三明に  
「天耳通（衆生の声を聞く）」「他心通（衆生の心中を知  
る）」「神足通（種々の神変を現ずる）」の三つを加えたも  
の）が具わった者を「中の薬草」に喩えています。  
人を救おうという心持ちにはならず、一人山林  
の中で心静かに仏さまの教えを思い修行をして  
いる「縁覚」を指しています。  
まだ自分が仏に成れると信じていない者です。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

3日

大安 箕

旧1月23日

日曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

ぜ じょう やく そう

是上薬草

「是れ上の薬草なり」

仏さまの教えに従って、自分も仏に成れると信じ、常に心穏やかに努力を惜しまず修行する者を「大きな薬草」に喩えています。

三蔵教（経・律・論）を学ぶ小乗の菩薩を指すといわれています。

しかしまだ多くの人々を救おうという心持ちはなく、個人の解脱のみを目的とするところから、小乗に分類されています。

草がいつか大木になるように雨が降るのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

4日

赤口 斗

旧1月24日

月曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

ぜ

みよう

しょう

じゆ

## 是名小樹

「是れ小樹と名づく」

「仏子」すなわち仏さまの弟子として、仏さまのお気持ちがよくわかり、その教えをよく学び、常に慈悲を行じ、一人悟るのみならず、多くの人を救う者を「小さい樹」に喩えています。修行を続けていけば、仏さまと同じ境地に至ることは疑いないと、成仏を前提にしているところだが、未だ自分の利を求めるところに通じるので、「大樹」に成り切れないところです。仏への道は厳しいのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

5日

啓蟄

先勝 女

旧1月25日

火曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

みよう

い

だい

じゆ

名為大樹

「名付けて大樹と為す」

不思議な力を具え、少しも緩まず怠らず教えを説き、数限りない人を導き、迷いを取り除き、救うことができる者を「大樹」と名付けます。人を導くために教えを説き続けていると、他者から責められ迫害に遭うことがあります。そのとき、自信を無くし疑いを持つようでは「大樹」とは言えません。常に他者を救うために専心できる大乘の菩薩を指しています。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

6日

友引 虚

旧1月26日

水曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

によ

かい

いつ

ちやく

如海一滴

「海の一滴の如く」

仏さまの教えは、いくら説いても言葉で説き尽くせるものではありません。

言葉に表した経文や説法も、それは海の一滴に過ぎないのです。

言葉や文字はただの手がかりであって、ある程度理解できたら、あとは自分で工夫して、実行して身に着ける努力をするしかないのです。

大海のように広大無辺の仏さまの教えの一滴をありがたくいただきながら精進しましょう。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

7

日

先負 危

旧1月27日

木曜

妙法蓮華経薬草喻品第五

ぜん ぜん しゅうがく

しつ とう じょうぶつ

漸漸修学 悉当成仏

「漸漸に修学して、悉く当に成仏すべし」

段々に修行を積み、菩薩の道を励めばいつかは  
仏さまと同じ悟りに行きつくのだから、焦らず  
に着実に歩みを進めるようにとの戒めです。

「即身成仏」という言葉がありますが、即時に仏  
に成るということではありません。

「即」には「一体となる」という意味があります。

雨のように降り注ぐ仏さまの教えを受け止めな  
がら、仏さまと一体になるために、一歩ずつ近  
づいていくしかないのです。

妙法蓮華經藥草喻品第五

或処人天 轉輪聖王 釈梵諸王 是小藥草 知無漏法 能得涅槃

起六神通 及得三明 独処山林 常行禪定 得縁覺証 是中藥草

求世尊処 我当作仏 行精進定 是上藥草 又諸仏子 専心仏道

常行慈悲 自知作仏 決定無疑 是名小樹 安住神通 転不退輪

度無量億 百千衆生 如是菩薩 名為大樹 仏平等説 如一味雨

随衆生性 所受不同 如彼草木 所稟各異 仏以此諭 方便開示

種種言辞 演説一法 於仏智慧 如海一滴 我雨法雨 充滿世間

〔中略〕

是名大樹 而得增長 如是迦葉 仏所説法 譬如大雲 以一味雨

潤於人華 各得成実 迦葉当知 以諸因縁 種種譬諭 開示仏道

是我方便 諸仏亦然 今為汝等 説最実事 諸声聞衆 皆非滅度

汝等所行 是菩薩道 漸漸修学 悉当成仏

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

8日

仏滅 室

旧1月28日

金曜

妙法蓮華経授記品第六

じゆ き

## 授記

「成仏の約束」

お釋迦さまは、薬草喻品にて四大声聞たちに、  
今後も菩薩道を歩むようにと告げられました。  
そして、授記品にて具体的な授記（成仏の約束）  
を与えられます。

授記を与える場合、必ず条件が示されます。

仏さまの教えを正しく理解し、善行を積んでき  
たという実績に加え、この先も修行を重ね人々  
を導くとの条件が達成された上の授記であり、  
すぐに仏に成れるというものではないのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

9日

大安 壁

旧1月29日

土曜

妙法蓮華経授記品第六

か しょう

じゆ き

## 迦葉の授記

「迦葉の授記」

お釈迦さまは、最初に迦葉に対して三百万億と  
いう限りない数の仏に仕え、敬い、教えを弘  
め、多くの人々を導いたならば、光明如来とい  
う名の仏に成れると授記を与えられました。

光明如来の国は「光徳」、その時代は「大莊嚴」と  
いう名で、浄らかな国の様子が述べられます。

迦葉は頭陀第一と称せられ、常に少欲知足  
に努め、お釈迦さま入滅後は、長老とし  
て、教えをまとめ教団を統率しました。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

10

日

友引 奎  
旧2月1日

日曜

妙法蓮華経授記品第六

む う ま じ

## 無有魔事

「魔事有ること無けん」

仏道を進むとそれを妨げる魔物が現れます。

しかし、魔物も仏に成る尊い性質を有しており、迦葉が仏と成った国では、魔物は心を翻し仏法を護る存在となった国では、魔物は心を翻し

どんな悪人でも、お互いに力を合わせ助け合うことの大切さは知っているはずです。

そこに仏性を認めるのが仏教です。

魔物や悪人も仏性があり、徐々に仏に帰依し、やがて仏法を守護するというのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

11

先負 婁

旧2月2日

月曜

妙法蓮華経授記品第六

が い ぶつ げん

我以仏眼

「我 仏眼をもって迦葉を見る」

「仏眼」は次の「五眼」の一つ。

①肉眼…利害得出で見る凡夫の眼

②天眼…禅定によって得られる天界の眼

③慧眼…物事を空であると見通す二乗の眼。

④法眼…衆生救済のために物事のありのままを

見通す菩薩の眼。

⑤仏眼…一切を見通す悟りを開いた仏の眼

お釈迦さまは心の奥まで見通す仏眼をもって、  
迦葉を見て、未来の成仏を予言された。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

12

仏滅 胃

旧2月3日

火曜

妙法蓮華経授記品第六

じょう

しゆ

ぼん

ぎょう

浄修梵行

「浄らかな心持ちで正しい行いを」

「梵行」とは迷わない浄らかな心持ちで正しい行いをする事。

梵行を修めるためには、仏さまと同じ智慧を具えるという高い理想を持って、己を慎むことが必要です。

世俗の規範を守ることは当然ですが、世の中のために尽くすことが自らの悦びとなるようにと努め、仏さまに近づこうという大理想を立て、間違いのない行いを積み重ねていきましょう。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

13

大安 昴  
旧2月4日

水曜

妙法蓮華経授記品第六

によい かんろ しゃ

如以甘露灑

によじゅうけこくらい

如従飢国来

じよねつとくしようりよう

熱除得清涼

こつぐ だいおうぜん

忽遇大王膳

「弟子たちの感謝と悦びを表した言葉」

「甘露をそそがれることにより熱が除かれ清涼を得るがごとく、飢えている国から来た人がたちまち最高のご馳走の前に座るように」

お釈迦さまから授記を受けた弟子たちが、その感謝と悦びを表現した言葉です。

施餓鬼法要の時に、飢えと渇きに苦しむ餓鬼たちに、飲食を施す際にこの句が唱えられます。欲望に振り回されている状態に気づくことが、心の中の餓鬼を救うことになるのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

14

赤口 畢

旧2月5日

木曜

妙法蓮華経授記品第六

## 須菩提しゆ ぼ だいの授記じゆ き

「須菩提の授記」

お釈迦さまは須菩提に対しても、三百万億という限りない数の仏に仕え、敬い、梵行を修め、多くの人々を導いたならば、名相如来という名の仏に成れると授記を与えられました。

名相如来の国は「宝生」、その劫は「有宝」という名で、浄らかな国の様子が述べられます。

須菩提は解空第一といわれました。

「空」とは差別を離れる平等という意味です。世の平等をよく理解した須菩提の授記です。

# 妙法蓮華經授記品第六

爾時世尊。說是偈已。告諸大衆。唱如是言。我此弟子。摩訶迦葉。於未來世。當得奉覲。三百万億。諸仏世尊。供養恭敬。尊重讚歎。広宣諸仏。無量大法。

〈中略〉

其国菩薩。無量千億。諸声聞衆。亦復無數。無有魔事。雖有魔及魔民。皆護佛法。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言

告諸比丘 我以仏眼 見是迦葉 於未來世 過無數劫 當得作仏 而於來世  
供養奉覲 三百万億 諸仏世尊 為仏智慧 淨修梵行 供養最上 二足尊已

〈中略〉

大雄猛世尊 諸釈之法王 哀愍我等故 而賜仏音声 若知我深心 見為授記者  
如以甘露灑 除熱得清涼 如從飢国來 忽遇大王膳 心猶懷疑懼 未敢即便食

〈中略〉

爾時世尊。知諸大弟子。心之所念。告諸比丘。是須菩提。於當來世。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

15日

先勝 齋

旧2月6日

日 金曜

妙法蓮華経授記品第六

じょう

しよ

こ

くう

常処虚空

「虚空に処す」

須菩提が未来世に名相如来となった際に、その名相如来は常に虚空に浮かび法を説くとお釈迦さまは告げられました。

すべてのものを等しく上から覆っている広い空と同じように、平等に虚空から法を説くという意味で、解空第一（世の中を平等に理解する）の須菩提にふさわしい説法の間です。

お釈迦さまは、弟子それぞれの能力も見極めたうえで未来を見通しているのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

16

日

土曜

友引 参

旧2月7日

妙法蓮華経授記品第六

さん

みよう

ろく

つう

三・明・六・通

「仏さまの智慧を得たら具わる能力」

「三明」と「六通」は組み合わせられて用いられます。

「三明」とは、智慧の働きにより、過去世を見通す「宿命通」、未来の生死の相を見通す「天眼通」、煩惱を断滅する「漏尽通」の三つのこと。

「六通」は「六神通」ともいい、「三明」に、あらゆる音を聞く能力「天耳通」、他人の考えを見抜く能力「他心通」、人智を越えた能力の総称「神足通」の三つを加えたもの。

仏さまの智慧を得て具わる能力です。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

17

日

先負 井

旧2月8日

日曜

妙法蓮華経授記品第六

か せん ねん

迦旃延の授記

じゆ き

「迦旃延の授記」

お釈迦さまは迦旃延に対して、八千億の仏に仕え、その仏の徳を讃えるためにきらびやかな塔を建て、その後さらに二万億の仏に仕え、菩薩行に励むならば、閻浮那提金光如来という名の仏に成れると授記を与えられました。

迦旃延は論議第一といわれた仏弟子でした。

論議とはお釈迦さまの教えを説き明かし、解りやすく伝えるという意味で、仏塔を建てるのも、その教えを末代に伝えるためなのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

18

日

仏滅 鬼  
旧2月9日  
月曜

妙法蓮華経授記品第六

もく

れん

じゆ

き

## 目連の授記

「目連の授記」

お釈迦さまは目連に対しても、八千の仏に仕え、その仏の徳を讃えるためにきらびやかな塔を建て、その後さらに二百万億の仏に仕え、菩薩行に励むならば、多摩羅跋栴檀香如来という名の仏に成れると授記を与えられました。目連は神通第一といわれえる仏弟子でした。神通力とは迷いを除く力のことです。仏さまの智慧を得て、「三明六通」が具わり、迷いを除くことができたのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

19

日 火曜

大安 柳

旧2月10日

妙法蓮華経授記品第六

ご しゅ ご ひやく

かい とう じゆ き

## 其数五百 皆当授記

「其の数五百なるも

皆授記を与える」

お釈迦さまは四大声聞に、今の心持ちでたゆみなく修行を重ねていけば必ず仏に成れると授記を与えました。

その授記の場にいた大勢の弟子たちの中には、四大声聞と同じように人々を導く力のある者が五百人おり、皆に授記を与えるとお釈迦さまは告げられました。

そして、『化城喻品』で過去からの因縁を説き、『五百弟子受記品』の授記につながるのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

20

日

春分

赤口星

旧2月11日

水曜

妙法蓮華経化城喻品第七

だい つう ち しょう によ らい

大通智勝如来

「仏さまとの深い縁」

化城喻品の大通智勝如来の説話は、お釈迦さまと衆生との関係がインドで誕生した時より始まるのではなく、はかり知れないほど遠い昔よりすでに縁が結ばれたことを伝えていきます。

お釈迦さま在世の説法の間だけでなく、久遠の過去から現在を経て、遙か未来まで、法華経の真理は説き続けられているのです。

今を生きる私たちのそばで、お釈迦さまが導いてくださっている論拠です。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

21

日

木曜

先勝 張

旧2月12日

妙法蓮華経化城品第七

さん ぜん だい せん せ かい

## 三千大千世界

「仏教の世界観における宇宙の単位」

大乘仏教においては、一人の仏さまが教化する世界を「三千大千世界」といい、宇宙は無数の三千大千世界から成立しているといわれます。

須弥山を中心として日・月・四大州・六欲天・梵天などを含む世界を「一世界」、一世界が千個集まったものを「小千世界」といい、小千世界が千個集まったものを「中千世界」といい、中千世界が千個集まったものを「大千世界」または「三千大千世界」といいます。

妙法蓮華經授記品第六

〈略〉

正法住世。二十小劫。像法亦住。二十小劫。其仏常処虚空。為衆說法。度脱無量菩薩。及声聞衆。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言

諸比丘衆	今告汝等	皆當一心	聽我所説	我大弟子	須菩提者
當得作仏	号曰名相	當供無數	万億諸仏	随仏所行	漸具大道
最後身得	三十二相	端正懸妙	猶如宝山	其仏国土	嚴淨第一
衆生見者	無不愛樂	仏於其中	度無量衆	其仏法中	多諸菩薩
皆悉利根	轉不退輪	彼国常以	菩薩莊嚴	諸声聞衆	不可称数
皆得三明	具六神通	住八解脱	有大威徳	其仏説法	現於無量
神通變化	不可思議	諸天人民	数如恒沙	皆共合掌	聽受仏語
其仏当寿	十二小劫	正法住世	二十小劫	像法亦住	二十小劫

〈略〉

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

22日

友引 翼

旧2月13日

金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

さん ぜん じん てん こう

ほう もん

## 三千塵点劫の法門

「仏さまとの関係が永遠であることの喩え」

大通智勝如来が説法していた時代がどれくらい遠い昔なのかを説明した教え。

「三千大千世界」を砕いて塵として、東に千の国土を過ぎるごとに、一つずつその塵を落とし、同じことを繰り返す、すべての塵がなくなった時間を一劫とします。

大通智勝如来の滅度から今日まで、はかり知れない時間を経たことを示し、仏さまとの関係が永遠であることの喩えです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

23日

先負 軫

旧2月14日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

観彼久遠

かん び く おん

猶如今日

ゆ によ こん ち

「彼の久遠を観ること、猶今日の如し」

仏さまの教えとその真理は、久遠の昔も、現在も変わらないということをお説いています。

私たちは一生の間に、たくさん善行・悪行を積んでいます。

そのおこないは、自分が一生を終えた後も何らかの形で影響を残していくものです。

一人ひとりの人生も、遠い未来に影響を与えていくのだと受け止め、仏さまの教えを繋いでいくためにも、日々を大切に生きていきたいものです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

24日

仏滅 角

旧2月15日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

は ま ぐん に

## 破魔軍已

「魔物の軍を破り悟りを得た」

大通智勝仏は魔物の軍を破り悟りを得ました。

お釈迦さまが悟りを得る前にも魔物が邪魔をしましたが(降魔)、何事も達成する間際には魔が差すといわれます。

「魔」には二種あり、難しいことや面倒なことを避けようとする臆病な心と、成功したら褒め讃えられるだろうと望む名誉欲です。

臆病になると前に進む勇気が薄れ、名誉欲が大きくなると事を急いで堅実さが失われます。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

25日

大安 亢

旧2月16日

月曜

妙法蓮華経化城喻品第七

に しょ ぶつ ぼう ふ げん ざい ぜん

而諸仏法 不現在前

「しかも諸仏の法 現在前せず」

大通智勝仏は魔軍を破りましたが、あと一歩のところまで悟りに至ることができません。

引き続き一小劫ないし十小劫もの永い間、身も心も動かずに坐していました。

もう少しというところでなかなか悟りを得られない、それほどに仏に成るのは容易ではないということなのです。

しかし、どれだけ困難があっても、年月を重ねても仏に成るべきお力があつたのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

26日

赤口 氏

旧2月17日

火曜

妙法蓮華経化城喻品第七

きょう

う

しん

しや

## 更雨新者

「さらに新しき華を降らす」

大通智勝仏の修行中に、梵天王たちが天上から  
たくさんの華を降らせました。

華が積もると良い香のする風が吹き、萎んだ華  
を吹き散らし、さらに新しい華を降させます。

これは仏さまの教えが、いかなる時代にも新た  
に届けられるということです。

インドでお釈迦さまが説法された教えが、現代  
の私たちのもとに古びることなく新しいままに  
届いていることを表しています。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

27

日 水曜

先勝 房

旧2月18日

妙法蓮華経化城喻品第七

じょうぎやくてんく

## 常撃天鼓

「常に天の鼓を撃ち」

「天鼓」は善い事をしようとする心を奮い立たせるといわれています。

大通智勝仏が悟りを得て、さらに涅槃に至るまでの永い間、天上の四天王の眷属たちは、鼓を打ち、音楽を奏でていました。

天上界と人間界に住む者たちが皆、仏さまの教えに帰依していることを意味します。

人間界の手本として、天上界の神々はゆるぎない「信」を示し、仏の出現を願っていたのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

28日

友引 心

旧2月19日

木曜

妙法蓮華経化城喻品第七

ぎゆう

ね

ほん

らく

有十六子

「十六人の王子あり」

大通智勝仏が出家する前は、国王の息子であり十六人の子を持つ父親でした。

しかしある時、悟りを得ようと国も親も妻子も捨てて出家を志しました。

人は何のために生まれ、生きているのかを知り世の人のためにそれを説き、救おうという大きな願いを持って出家されたのです。

お釈迦さまの出家と同じ出来事が説かれている場面です。

# 妙法蓮華經化城喻品第七

〔略〕

世尊。諸比丘。是人所經国土。若点不点。尽抹為塵。一塵一劫。彼仏滅度已來。復過是數。無量無  
辺。百千万億。阿僧祇劫。我以如来知見力故。

觀彼久遠。猶如今日。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言

〔中〕

仏告諸比丘。大通智勝仏。寿五百四十万億。那由佗劫。其仏本坐道場。破魔軍已。垂得阿耨多羅三藐

三菩提。而諸仏法。不現在前。如是一小劫。乃至十小劫。結跏趺坐。身心不動。而諸仏法。猶不在

前。爾時漁利諸天。先為彼仏。於菩提樹下。敷師子座。高一由旬。仏於此座。當得阿耨多羅三藐三菩

提。適坐此座。時諸梵天王。雨衆天華。面百由旬。香風時來。吹去萎華。更雨新者。如是不絶。

滿十小劫。供養於仏。乃至滅度。常雨此華。四王諸天。為供養仏。常擊天鼓。其余諸天。作天伎樂。

滿十小劫。至于滅度。亦復如是諸比丘。大通智勝仏。過十小劫。諸仏之法。乃現在前。成阿耨多羅三

藐三菩提。其仏未出家時。有十六子。其第一者。名曰智積。諸子各有。種種珍異。玩好之具。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

29日

先負 尾

旧2月20日

日 金曜

妙法蓮華経化城喻品第七

ご そ てん りん じょう おう

其祖 轉輪聖王

「其の祖 轉輪聖王」

「其の祖」とは十六王子の祖父で、大通智勝仏の父親の徳の高い王「轉輪聖王」のことです。

その「轉輪聖王」が大勢の家臣や十六王子ら親族とともに、大通智勝仏のもとに供養の品を持って参じ、帰依することを告げました。

悟りを得たならば、まずは親や妻子など身内に教えを伝え導き、さらに世の中の多くの人々を教化していこうとするものです。

待っていた親族たちの喜びも伝わる場面です。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

30

日

仏滅 箕

旧2月21日

土曜

妙法蓮華経化城喻品第七

しよ

がん

い

ぐ

そく

所願已具足

「所願すでに具足し」

大通智勝仏は悟りを得て、仏に成るといふ願いを満足させることができました。

私たちは子供の頃から多くの望みを抱きますが、その多くが実現されずに終わります。

どれだけ苦勞をしても、必ず目的を果たすといふ強い決心が伴わなければ、大きな望みを叶えるのは難しいことでしょう。

この決心を伴う強い望みが「願」であり、大通智勝仏は最高の「願」を成就されたのです。

# 法華経 日めくり

令和6年 甲辰

2024年

3月

31日

大安 斗

旧2月22日

日曜

妙法蓮華経化城喻品第七

が とう とく ぜん り

## 我等得善利

「我ら善利を得た」

大通智勝仏の父である転輪聖王は、かつて共に暮らしていた息子が、永く修行をして仏に成ったということに大きな喜びを得ました。

もし仏さまが天から降りてきて説法されたとしても、自分たちも仏に成れるとは思えない。

身近な親族が修行の末に仏に成ったことを目の当たりにして、自分たちも悟ることができただと実感した悦びの表れです。

私たちも仏に成ると願いを持てるのです。

妙法蓮華經化城喻品第七

〔略〕

其祖轉輪聖王。与一百大臣。及余百千万億人民。皆共圍繞。随至道場。

咸欲親近。大通智勝如来。供養恭敬。尊重讚歎。到已頭面礼足。繞仏畢已。

一心合掌。瞻仰世尊。以偈頌曰

大威徳世尊 為度衆生故 於無量億歳 爾乃得成仏 諸願已具足 善哉吉無上

世尊甚希有 一坐十小劫 身体及手足 静然安不動 其心常憺怕 未曾有散乱

究竟永寂滅 安住無漏法 今者見世尊 安穩成仏道 我等得善利 称慶大歡喜

衆生常苦惱 盲冥無導師 不識苦尽道 不知求解脱 長夜增惡趣 減損諸天衆

従冥入於冥 永不聞仏名 今仏得最上 安穩無漏法 我等及天人 為得最大利

是故咸稽首 帰命無上尊

〔略〕